

学校長挨拶

4月5日に120名の新入生を迎え、令和3年度がスタートしました。本校校長として着任して2年目、生徒たちと共に学び、活動できる学校生活を考えるとわくわくがとまりません。

本校は、人権感覚豊かで高い志をもって学び続ける人、そして国際都市川崎をリードするたくましい人を育てることを目指し、2014（平成26）年に川崎市初の公立中高一貫教育校として開校しました。今年度で開校して8年目となりますが、その理念に変わりはありません。

情報技術の急速な発展と、それに伴うグローバル化により社会は大きく変わってきています。本校ではこれからの時代を生きる子どもたちにとって必要な力を育むことができる教育を行うことを考え、開校から次の3つを柱とした教育活動を展開しています。

1. 体験・探究

直接体験を重視し、仲間と協働しながら探究的に学ぶこと

2. ICT活用

ICTを適切に使いこなし、情報化社会に正しく対応できること

3. 英語・国際理解

世界に目を向け、バランスのよい人権感覚で世界の様々な人とつながり、またそのための言語力や表現力を身につけること

具体的には、千葉県君津市と連携した農業体験を通して社会を見つめ探究したり、一人一台のパソコンを文房具のように使って授業に取り組んだり、学習発表をしたり、英語を使ってパフォーマンスをしたり、生徒は本校の環境の中で、楽しそうに生き生きと学んでいます。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により、臨時休業からのスタートでした。本校では、課題等を各家庭に郵送するとともに、オンラインによる学習支援体制を整えるためプロジェクトチームを立ち上げ対応してきました。画面上ではありますが、学級担任と顔が見える状況をつくることで、健康観察や生活改善に役立てるだけでなく、何よりつながることで安心感を味わうことができました。

このような経験から、オンラインで行えることの可能性が広がるとともに、人は人と社会的かかわりをもつことで健全な成長をするという当たり前のことが、改めて認識されました。今の混沌とした世の中を見ると、情報があふれる今日の社会において、何が大切なことなのか、何が真実なのか、自分の頭でしっかりと考えることができる力を身につけること、そして、人の痛みがわかり、相手をいたわり思

いやる心を育むことが一層必要であると感じています。本校においても、開校の理念を踏まえ、生徒が主体的に学び、お互いを大切にし合える温かい学校の実現を目指して力を尽くしていきます。

今年度の本校の全体研究テーマは、『わくわくがとまらない授業の実践 ～ICT を効果的に活用した協働的な学びを通して～』です。「わくわくがとまらない授業」とは「好奇心が刺激され、学ぶことが楽しいと感じる授業」であり、「生徒が主役となる授業」です。

わくわくしたいみなさん、ぜひ本校を志願してください！教職員一同お待ちしております！



川崎市立川崎高等学校附属中学校

校長 植村 裕之